

平成30年度大阪府立難波支援学校  
第一回学校運営協議会

1. 日時 平成30年7月13日（金） 10:00～11:35

2. 場所 大阪府立難波支援学校校長室

3. 次第

(1) 開会

(2) 委員紹介

(3) 学校経営計画について

「平成30年度 学校経営計画及び学校評価」による説明

(4) コース制授業について

「府立難波支援学校 コース制授業」による説明

(5) その他

(6) 閉会（校長挨拶、会長挨拶）

4. 協議内容（各委員からの主な意見）

◎ 学校経営計画について

- ・小学部から高等部までの教育課程の連続性は意外に難しい。（現在作成中の）キャリアプランニングマトリックスの中でどのように連続性を検討していくことができるかが一つの課題である。
- ・教員が目立たない学校行事が理想。生徒自身で考え、どれだけ自分たちで行えるか。校内での活動においては、「自分たちでこの学校を動かしている」とどれだけ思えるか。そういう部分の支援が大切だと思われる。
- ・重点内容から具体的な取り組みが非常に細かく書かれていて、評価指標も客観的に分かりやすく挙げられている。
- ・正面から課題に取り組んでいる学校経営計画に感じる。その中で、なにわ高等支援学校との併設校としての悩みを感じながらどうやって特色を出すのか、という部分をきちんと直視できている。「難波支援学校に来てよかったな。」と思えるようにしっかり考えられているオーソドックスかつ丁寧で地に足を付けた経営計画で良い。

◎ コース制授業について

- ・進路選択にはやや不安を感じることもあるが、コース制授業の導入により支援がより必要な生徒も将来の不安が少しでも軽減されることが望まれる。

- ・すべての生徒を対象としており、働くための意欲を高め、どれだけ働きたいと思えるか、という内容のものにしてほしい。
- ・職業自立コースに書かれている、『特定の職業に就くための特化した職業訓練を行うものとは考えていません』とう表記が良い。学校教育は訓練ではなく、スキルは高くても心が弱い子は、就労が長続きしないことが多い。

### ◎ 教育課程、キャリア教育等について

- ・学校での個別指導、細かい配慮など取り組みの変化を感じる。
- ・キャリア教育が目指しているものは、単に就職させることではなく、自分が生活していく場面で自分が果たす役割をどれだけ行うことができるかが、障がいの軽重を問わず人生の充実につながる。
- ・小学部で行うキャリア教育が一番難しいが、一番大切。具体的に取り組むべき内容は以下の3点があげられる。
  - ①内面を育て意欲を高めることが大切。入学後、どれだけおもいきり遊ぶことができるか。そこから興味や遊びに対する意欲を広げることができるか。それが新たな意欲につながる。
  - ②主体性を育てること。遊ぶことからどれだけ人とのつながりがもてるか。
  - ③自分で考えて判断する力。自分の役割をどう果たすか。役割意識をどれだけもてるか。
- ・小学部でのキャリア教育の充実が、中学部や高等部での働く意欲につながる。

### ◎ その他

- ・先生方のさらなる専門性の向上を求める声がある一方、研修等を受けることによる先生方の負担が増加してしまうのでは、という心配の声も聞かれる。
- ・自己肯定感をどれだけ育てることができるか。自信を持って肯定してあげる指導が特別支援教育に一番求められている。また、卒業後も相談にのっていただくなどのフォローもしていただければありがたい。
- ・児童生徒は、最終的には地域に戻る。地域としてできることは何があるか。課題が多いと感じる家庭が増えてきている中、地域に対して学校側が求めていることを投げかけてくなくても構わない。